

研究計画書

ゼミ名	柘植ゼミⅡ	チーム名	なららん
タイトル	奈良の観光をどうすれば活性化できるか ～宿泊客数増加による奈良の観光活性化～		
テーマ群	e) 産業・企業		
メンバー	森一馬 植田将弘 井上佳奈 増田佳織里 佐治杏奈 加藤三鈴 長澤結奈 松本桃子 山崎優花 高尾恵 川端敬		
研究計画内容	<p>・研究背景と目的</p> <p>私達が奈良の観光をテーマに取り上げた理由は、奈良を訪れる観光客数は全国的に見ても決して少なくはないにもかかわらず、宿泊客数が全国最下位であると知ったからである。</p> <p>日帰り客の一人当たりの観光消費額は約1万5,000円、宿泊客はその3倍以上の約5万円と言われている。観光消費額が多いほど、その経済波及効果は大きい。奈良県は年間観光客数約1900万人のうち日帰り客数が約1700万人、宿泊客数が約200万人と、宿泊客数の占める割合が小さいため、日帰り客が宿泊していれば得られたであろう観光による収益を得られずにいる。このことから私達は、奈良の観光の最も重要な課題は宿泊客数の増加であると考え、「宿泊客数の増加による奈良の観光の活性化」というテーマを取り上げた。</p> <p>・提案する解決策</p> <p>私達はこの課題を解決する方法として、奈良に宿泊する魅力的なツアーを考え、多くの観光客に参加してもらうことで宿泊客数を増やすという案を提案する。</p> <p>・研究の流れ</p> <p>最初に奈良の観光の実情をインターネットでの情報収集、神戸や奈良でのアンケート調査によって詳しく調べ、実情から宿泊客数が伸びない原因を明らかにする。次に、改善案として宿泊客数を増やすことができるようなツアーとそのツアーのターゲット層を考える。そして、私達がターゲット層と考える人々は旅行ツアーを選択する際にどのような要素を重視するのか、また私達が提案するツアーにはどれほどの需要があるのかを調べるために、コンジョイント分析を用いた分析を行う。最後に、分析の結果をもとに、人々が最も参加したいと思うようなツアーを考察し提案する。</p>		